

交通安全協会だより（令和2年1月号）

～ 高齢者の交通事故を無くすために ～

車の運転、歩行者の交通行動は、「自己の通行に障害となる道路環境及び他の交通の認知（発見）」「危険（事故）回避措置の要否及びその方法、程度の判断」そして「回避措置（操作）」の3つの流れの繰り返しです。

交通事故は、この3つの流れ（認知、判断、措置（操作）」の中でミス又は遅れが生じた場合に発生するものです。

高齢者は、その身体的特性から認知、判断及び措置の各段階のミス又は遅れが多く、昨年中は全事故死者の約7割を高齢者が占め、事故率が高いことから、高齢者の交通事故を防ぐためにはどうあるべきか、そのポイントを抽出してみました。

高齢者自身の注意のポイント

- 歩くとき
 - ・ 少し遠回りになっても、歩道のある道路、交通量の少ない道を選ぶ。
 - ・ 夜間は、できるだけ外出を控える。
 - ・ 外出する場合は、明るい服装で反射材を活用する。
- 道路を横断するとき
 - ・ 車が遠くに見えても通り過ぎるまで待つて横断する。
 - ・ 「止まる、見る、待つ」を習慣づける。
 - ・ 走行中の車両や、駐・停車車両の直前直後の横断はしない。
 - ・ 斜め横断はしない。
- 車を運転するとき
 - ・ 夜間は、視力が低下するため、できるだけ運転は控える。
 - ・ 危険に対する反応時間が余分にかかるため、ゆとりのある運転をする。

 - ・ 長時間運転は、知らず知らずのうちに疲労が重なるため、1時間走ったら休憩を取り、車外に出て体操をするなど気分転換を図る。
 - ・ 交差点は、情報の早期入手と、それに対応する適切な判断、操作が要求されるので、より一層の安全確認をする。

今年のスローガン

- ☆ 運転者（同乗者を含む）へ呼びかけるもの
スマホより 横断歩道の 僕を見て
- ☆ 歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの
夕暮れの 一番星は 反射材
- ☆ 中学生以下へ交通安全を呼びかけるもの
しっかりと 止まってかくにん 横だん歩道